

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	関西外国語大学
設置者名	学校法人 関西外国語大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
英語キャリア学部	英語キャリア学科	夜・通信	20	0	26	46	13	
	英語キャリア学科 小学校教員コース	夜・通信			16	36	13	
外国語学部	英米語学科	夜・通信		58	0	78	13	
	スペイン語学科	夜・通信			0	78	13	
英語国際学部	英語国際学科	夜・通信		56	0	76	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/university_faculty_list.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし
(困難である理由) 該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	関西外国語大学
設置者名	学校法人 関西外国語大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

「事業報告書」に役員名簿を記載。「事業報告書」は大学ホームページに掲載。
http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.financial.h30_05.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	国立大学名誉教授	2018/10/26 ～ 2023/10/25	理事会の適正運営
非常勤	私立大学専務理事	2018/10/26 ～ 2023/10/25	理事会の適正運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	関西外国語大学
設置者名	学校法人 関西外国語大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 【授業計画書(シラバス)の作成過程】 すべての授業科目において、講義概要、実務経験のある教員等による授業科目についてはその旨、到達目標、受講に際しての注意事項、評価基準、教科書、授業計画(各回の内容)、授業外学修を記載した授業計画書(シラバス)を作成しています。作成にあたり、各学部・学科等の学位授与方針との整合性や厳格かつ適正な成績評価を設定するために、授業計画書(シラバス)作成の手引きを教務委員会で策定し、毎年全教員へ配付しています。各教員が作成した授業計画書(シラバス)は、教務委員会等の第三者が内容確認を行い、必要に応じて各教員への指導を行うなど、教育内容・方法の質が維持できるよう努めています。 【授業計画書(シラバス)の作成・公表時期】 授業計画書(シラバス)は、次年度の履修登録時(3月下旬)にWebで公表し、授業選択の際にすべての開講科目が確認できるようにしています。Webによる授業計画の公表は、2004年度より行っており、学生が過去に履修した授業の内容の確認や卒業後の進学において単位認定等で活用できるよう、過年度の授業計画書(シラバス)もすべて公表しています。	
授業計画書の公表方法	ホームページにて公表 https://rapport2.kansai-gaidai.ac.jp/syllabus/GUSW1000Login.do
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価は、履修規程において学期末試験、中間テスト等の試験、レポート、授業への参加度等を総合して評価することが明記されています。成績評価基準は最終成績に占める各項目の割合の合計が必ず100%になっています。第三者による授業計画の内容確認の際、適正に評価基準が設定されていない授業については、担当教員へ連絡して修正を行っています。 単位授与は、各教員から報告される点数(素点)が60点以上を合格として教務委員会が単位認定を行います。学生への通知は、教員より報告された点数(素点)を通知し、学修成果を厳格かつ適正に評価する運用に努めています。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【GPA等の客観的な指標の具体的な内容】

学生が学修の成果を自ら検証するための指標として、GPAを導入しています。GPAを算出するためのGrade Pointは主として海外で導入されている12段階の基準を導入し、成績の客観性を確保するとともに国際通用性を高めています。GPAは、当該学期に履修した科目のみを算入する「学期GPA」と、入学後に履修したすべての科目を算入する「累積GPA」の2種類を算出し、成績発表時に学生へ通知しています。具体的な算出方法は次のとおりです。

1. 履修科目の成績点数に応じて、相応するGrade Pointを次の表のとおり付与します。

成績点数	Grade Point
100～97	4.0
96～93	
92～90	3.7
89～87	3.3
86～83	3.0
82～80	2.7
79～77	2.3
76～73	2.0
72～70	1.7
69～67	1.3
66～63	1.0
62～60	0.7
59～0	0.0

2. Grade Point Average (GPA) は次のとおり算出します。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{GPA 対象科目の Grade Point} \times \text{単位数}) \text{ の総和}}{\text{GPA 対象科目の単位数の総和}}$$

【客観的な指標の算出方法の公表方法】

GPAの算出方法は、履修規程に明記し、ホームページを通じて公開しています。また、GPAの分布について、学部学科等の学年別に「学期GPA」と「累積GPA」の分布表をホームページで公開しています。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ホームページにて公表
http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/info_disclosure_publication_score.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【英語キャリア学部 英語キャリア学科】

○学位授与の方針 (DP)

本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士(英語キャリア)」の学位を授与します。

1. 高度なコミュニケーション力と、国際社会で通用する知識、教養、スキルを身につけ、グローバル社会で自在に意思疎通を図ることができるようになる。
2. 論理的思考力、公正な視点、幅広い教養を身につけ、グローバル社会でリーダーシップを発揮することができるようになる。
3. 国際理解力、多文化共生力を身につけ、グローバル社会で貢献を果たすことができるようになる。

○学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認、英語外部試験による客観的指標等により行います。

1. 修得科目、留学等の体験、および3アドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオを活用し、学修成果の到達度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。
2. 英語力については、TOEFLなどの英語外部試験の客観的な指標を設け学修成果を検証します。
3. 4年次における複合研究科目の履修と学修成果の発表により、4年間の学修成果を評価します。

【英語キャリア学部 英語キャリア学科 小学校教員コース】

○学位授与の方針 (DP)

本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけ、小学校教員免許状を取得した者に、「学士(教育)」の学位を授与します。

1. 教育に対する強い情熱・使命感を持ち、小学校教育において優れた指導力を発揮できるようになる。
2. 教科指導、生活指導、教科外活動などの学校教育活動を推進できるようになる。
3. コミュニケーション力、国際理解力、多文化共生力を身につけ、小学校英語の実践において指導的な役割を演じることができるようになる。

○学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認、教員免許状の取得状況などにより行います。

1. 修得科目、教育実習などの学びの履歴、およびクラス・アドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオを活用し、学修成果の到達度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。
2. 小学校教員としての資格である「小学校教諭一種免許状」の取得を卒業要件の一つとして課します。

【外国語学部 英米語学科】

○学位授与の方針（DP）

本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士(英語学)」の学位を授与します。

1. 人文科学および社会科学の英語基礎文献を正確に理解し、思考力、表現力を高めて、自らの意見を英語で発信できるようになる。
2. クリティカルかつロジカルに、ものごとを理解し、英語で発信できるようになる。
3. 自分の専門領域（国際関係、国際文化、言語）に対する深い専門性を英語で探究することにより、グローバル社会で求められる専門的知識・教養を身につけ、一層豊かな国際感覚を磨いて、多文化共生の国際社会で活躍できるようになる。

○学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。

1. 修得科目、留学等の体験、およびクラスアドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオにより、学修成果の達成度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。
2. 長期留学にかかる英語力については、TOEFL などの英語外部試験の客観的な指標を設け学修成果を検証します。

【外国語学部 スペイン語学科】

○学位授与の方針（DP）

本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる能力・資質を身につけた者に、「学士(スペイン語学)」の学位を授与します。

1. スペイン語の高度な運用能力を身につけ、論理的にもものごとを理解し、自らの意見を表現できるようになる。
2. 自分の専門領域（国際関係、国際文化、言語）に対する専門性を探究することにより、グローバル社会で求められる専門的知識・教養を身につけ、一層豊かな国際感覚を磨いて、多文化共生の国際社会で活躍できるようになる。

○学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。

1. 修得科目、留学等の体験、およびクラスアドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオにより、学修成果の達成度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。
2. 長期留学にかかる英語力については、TOEFL などの英語外部試験の客観的な指標を設け学修成果を検証します。

【英語国際学部 英語国際学科】

○学位授与の方針（DP）

本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士(英語国際)」の学位を授与します。

1. 自らの考えを積極的に発信できる英語力の修得、ならびに英語に加え中国語を学修し、多様な人々と柔軟にコミュニケーションできるようになる。
2. 異文化にかかる知識の獲得、異なる価値観や考え方を受容し、対応できるようになる。
3. グローバル社会にかかる幅広い知識を身につけ、その動向を理解し分析できるようになる。
4. 主体性、行動力、論理的思考力、課題解決力など、グローバル社会で活躍する上で求められる能力を身につけ、発揮できるようになる。

○学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。 1. 修得科目、留学等の体験、およびクラスアドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオにより、学修成果の達成度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。 2. 長期留学にかかる英語力については TOEFL などの英語外部試験の、また中国語力については中国外部試験（HSK）の客観的な指標を設け学修成果を検証します。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	ホームページにて公表 http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/academics.career.main.vision.3policy_career.pdf http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/academics.career.elementary.vision.3policy_elementary.pdf http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/academics.foreign.vision.3policy_english.pdf http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/academics.foreign.vision.3policy_spanish.pdf http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/academics.globalcomm.vision.3policy_globalcommunication.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	関西外国語大学
設置者名	学校法人 関西外国語大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.kansaiaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.financial.h30_03.pdf
収支計算書又は損益計算書	http://www.kansaiaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.financial.h30_01.pdf
財産目録	http://www.kansaiaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.financial.h30_04.pdf
事業報告書	http://www.kansaiaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.financial.h30_05.pdf
監事による監査報告(書)	http://www.kansaiaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.financial.h30_06.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページにて公表 http://www.kansaiaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.assessment.univ2017.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページにて公表 http://www.kansaiaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.assessment.02.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 英語キャリア学部 英語キャリア学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/academics.career.main.vision.3policy_career.pdf） （概要） 高度なコミュニケーションを可能とする本格的英語力と、社会科学の学修を通じて得る知識・論理的思考力・公正な視点および国際理解力と多文化共生力を基盤とし、併せて幅広い教養や豊かな人格形成等からなる英語キャリア基礎力を養成することにより、多文化共生社会においてリーダーシップを発揮する高度国際職業人につながる人材の育成を目的とします。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/academics.career.main.vision.3policy_career.pdf） （概要） 本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士(英語キャリア)」の学位を授与します。 1. 高度なコミュニケーション力と、国際社会で通用する知識、教養、スキルを身につけ、グローバル社会で自在に意思疎通を図ることができるようになる。 2. 論理的思考力、公正な視点、幅広い教養を身につけ、グローバル社会でリーダーシップを発揮することができるようになる。 3. 国際理解力、多文化共生力を身につけ、グローバル社会で貢献を果たすことができるようになる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/academics.career.main.vision.3policy_career.pdf） （概要） 本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能などを修得させるために、専門教育科目（専門複合科目、専門研究科目）、教養教育科目を体系的に編成し、授業を開講します。 ・複合的学修を通して、英語キャリア基礎力の修得をめざします。 ・1年間海外に留学し、留学先大学で専門科目などを学修します。 ・留学先での学修を含めて卒業所要単位のおよそ3分の2程度までオール・イングリッシュによる受講が可能なカリキュラムとします。 ・専門教育科目において、英語学・文学等に関する科目とともに文化・歴史・社会等に関する科目をここに位置づけ、これらの科目について一定程度の深い専門性を加えた内容を学習することによって、いわゆる「外国学」を広く修得することとし、教養教育科目を含めた教育課程全体で「幅広い教養と豊かな人格形成」をめざします。 1. 教育内容について (1) 1年次・2年次においては、英語学と社会科学に関する基礎的な知識、理論、方法論を学修し、英語キャリア基礎力の一つである英語運用能力、コミュニケーション力、社会科学の思考法などの獲得をめざします。 (2) 専門複合科目における上位年次での学修では、英語学と社会科学が複合した内容を学修し、英語キャリア基礎力の基盤となる「英語と日本語を用いた思考」への深化を図ります。 (3) 専門研究科目の「英語プロフェッショナル科目群」「グローバル・ビジネス科目群」「国際教養科目群」における学修を通して、英語キャリア基礎力である高度なコミュニケーション

ンを可能とする本格的な英語力をはじめ、公正な視点、論理的思考力、客観的思考力、幅広い教養の修得により「豊かな人格」の形成をめざします。

(4) 教養教育科目では、幅広い教養とインターンシップなどを通してキャリア形成の修得をめざします。

(5) 1年間の海外留学を通して、実践的なコミュニケーション能力、多文化共生力、国際理解力、リーダーシップを身につけます。

2. 教育方法について

(1) 「英語」と「社会科学」の2つの系統の学問分野の複合的学修（「ことば」と「学問分野」の複合）を通して、英語キャリア基礎力の修得をめざします。

(2) 1年次・2年次の専門複合科目に配置する英語科目にて、本格的な英語力を身につけるため Content-based Approach（内容重視の外国語教育法）を用いて授業を行います。

また英語外部試験等による客観的な指標によりクラス編成を行い、自分のレベルに応じた科目履修をします。

(3) 原則として3年次には留学し、留学先大学で専門科目などを学修します。

(4) 4年次には、それぞれの学問分野に軸足を置き、さらに深化発展させ、キャリア基礎力の修得に向けた仕上げとしての専門複合科目「複合研究科目」を学修します。

(5) 主体的に学ぶ力を高めるため、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどの教育方法を活用したアクティブ・ラーニング型授業を実施します。

(6) 3アドバイザー制度（アカデミック・アドバイザー、スタディ・アブロード・アドバイザー、キャリア・アドバイザー）により、それぞれの立場から、4年間の学びを通して順次的・発展的に学修支援、留学支援、職業的自立支援などの学修に関する支援ならびに指導を行います。

3. 学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認、英語外部試験による客観的指標等により行います。

(1) 修得科目、留学等の体験、および3アドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオを活用し、学修成果の到達度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。

(2) 英語力については、TOEFLなどの英語外部試験の客観的な指標を設け学修成果を検証します。

(3) 4年次における複合研究科目の履修と学修成果の発表により、4年間の学修成果を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公表

http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics.career.main.vision.3policy_career.pdf）

（概要）

本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。

1. 求める人材像について

高等学校までの履修内容を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、

(1) 高等学校での学習・活動を通しての基礎的な知識・技能や目的意識・意欲のある人

(2) 「英語」と「社会科学」が複合した内容を学修し、本格的英語力、論理的思考力、公正な視点、国際理解力、多文化共生力などを基盤とした英語キャリア基礎力を身につけ、国際社会で活躍するキャリア形成をめざす強い意志と情熱を持つ人

2. 評価方法について

上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学で学修するための基盤となる学力などについて評価します。 (1) 一般入試 ア. 一般入試 個別学力検査（外国語、国語）により評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜する入試については、英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。 イ. センター試験利用入試 大学入試センター試験の得点により評価します。 (2) 特別入試 ア. 2カ年留学チャレンジにおいては、書類選考・筆記試験・面接を総合して評価します。 イ. 公募制推薦入試においては、基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書を総合して評価します。
--

学部等名 英語キャリア学部 英語キャリア学科小学校教員コース
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics.career.elementary.vision.3policy_elementary.pdf）
（概要） 教育に対する強い情熱・使命感を持ち、小学校教育に関する全領域にわたる優れた実践的指導能力を身につけ、コミュニケーションを可能とする英語力と、国際理解力と多文化共生力を有した高度国際職業人につながる人材の育成を目的とします。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics.career.elementary.vision.3policy_elementary.pdf）
（概要） 本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけ、小学校教員免許状を取得した者に、「学士(教育)」の学位を授与します。 1. 教育に対する強い情熱・使命感を持ち、小学校教育において優れた指導力を発揮できるようになる。 2. 教科指導、生活指導、教科外活動などの学校教育活動を推進できるようになる。 3. コミュニケーション力、国際理解力、多文化共生力を身につけ、小学校英語の実践において指導的な役割を演じることができるようになる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics.career.elementary.vision.3policy_elementary.pdf）
（概要） 本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能などを修得させるために、専門教育科目（専門複合科目、専門研究科目、専門初等教育科目）、全学共通教育科目を体系的に編成し、授業を開講します。 ・子どもの生きる力を育むことを主たる目的として、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動をはじめとする小学校教育における全領域にわたる専門知識と実践的指導力の養成をめざします。 ・教育に対する強い情熱や使命感を持ち、実践的指導力を有する人材を育成するため、学校現場体験やボランティア活動を積極的に取り入れます。 ・専門教育科目において、英語学・文学等に関する科目とともに文化・歴史・社会等に関する科目をここに位置づけ、これらの科目について一定程度の深い専門性を加えた内容を学習することによって、いわゆる「外国学」を広く修得することとし、教養教育科目を含めた教育課程全体で「幅広い教養と豊かな人格形成」をめざします。

1. 教育内容について (1) 専門教育科目の「教職専門科目群」「初等教科専門科目群」「初等教科教育法科目群」「初等教育学科目群」にて、小学校教育における全領域にわたる専門知識と実践的指導力など教育力の獲得をめざします。 (2) 専門教育科目の「英語コミュニケーション科目群」「言語教育科目群」「多文化共生理解科目群」「関西外大流グローバル人材育成プログラム」にて、小学校の英語教育に必要な英語力や国際理解力や幅広い教養などの獲得をめざします。 (3) 全学共通教育科目では、幅広い教養とインターンシップなどを通してキャリア形成の獲得をめざします。 2. 教育方法について (1) 1年次・2年次の専門複合科目である英語科目(English Intensive Program)にて、本格的な英語力を身につけるため Content-based Approach（内容重視の外国語教育法）を用いて授業を行います。 (2) 教育実践感覚などを養成するため、1年次から小学校などの教育現場での体験、小・中・高校などでボランティアとして教育活動に携わるプログラムを実施します。 (3) 小学校教育に必要な全領域の実践的指導力を養成するため、少人数教育を実施します。 (4) 主体的に学ぶ力を高めるため、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどの教育方法を活用したアクティブ・ラーニング型授業を実施します。 (5) 担当教員をクラスアドバイザーとして各年次に割り当て、学生の学修、教職に向けての支援ならびに指導を行います。 3. 学修成果の評価について 学修成果の評価は、単位修得の確認、教員免許状の取得状況などにより行います。 (1) 修得科目、教育実習などの学びの履歴、およびクラスアドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオを活用し、学修成果の到達度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。 (2) 小学校教員としての資格である「小学校教諭一種免許状」の取得を卒業要件の一つとして課します。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansaiaidai.ac.jp/common/pdf/academics.career.elementary.vision.3policy_elementary.pdf）
（概要） 本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。 1. 求める人材像について 高等学校までの履修内容を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、 (1) 高等学校での学習・活動を通しての基礎的な知識・技能や目的意識・意欲のある人 (2) 「英語」と「社会科学」が複合した内容を学修し、本格的英語力、論理的思考力、公正な視点、国際理解力、多文化共生力などを基盤とした英語キャリア基礎力を身につけ、国際社会で活躍するキャリア形成をめざす強い意志と情熱を持つ人 2. 評価方法について 上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学で学修するための基盤となる学力などについて評価します。 (1) 一般入試 ア. 一般入試	

個別学力検査（外国語、国語）により評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜する入試については、英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。 イ．センター試験利用入試 大学入試センター試験の得点により評価します。 (2) 特別入試 ア．2カ年留学チャレンジにおいては、書類選考・筆記試験・面接を総合して評価します。 イ．公募制推薦入試においては、基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書を総合して評価します。

学部等名 外国語学部 英米語学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics.foreign.vision.3policy_english.pdf） （概要） 高度で実践的な英語運用能力の向上を図るとともに、英語圏をはじめとする諸外国・地域の歴史や文化に関する幅広い理解、国際感覚、ならびに豊かな専門知識を育むことにより、国際社会で活躍できる人材の育成を目的とします。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics.foreign.vision.3policy_english.pdf） （概要） 本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士(英語学)」の学位を授与します。 1. 人文科学および社会科学の英語基礎文献を正確に理解し、思考力、表現力を高めて、自らの意見を英語で発信できるようになる。 2. クリティカルかつロジカルに、ものごとを理解し、英語で発信できるようになる。 3. 自分の専門領域（国際関係、国際文化、言語）に対する深い専門性を英語で探究することにより、グローバル社会で求められる専門的知識・教養を身につけ、一層豊かな国際感覚を磨いて、多文化共生の国際社会で活躍できるようになる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics.foreign.vision.3policy_english.pdf） （概要） 本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能などを修得させるために、専門教育科目、共通教育科目を体系的に編成し、授業を開講します。 ・コミュニケーション・ツールとしての実践的な英語力の養成をめざします。 ・学生のキャリア目標に応じた専門科目を体系的に学修するためコース制をとります。 ・専門教育科目において、英語学・文学等に関する科目とともに文化・歴史・社会等に関する科目をここに位置づけ、これらの科目について一定程度の深い専門性を加えた内容を学習することによって、いわゆる「外国学」を広く修得することとし、共通教育科目を含めた教育課程全体で「幅広い教養と豊かな人格形成」をめざします。 1. 教育内容について (1) 1・2年次の専門必修科目（コア必修科目）では、英語を集中して学び、基礎学力はもとより、人文科学・社会科学の英語基礎文献を正確に理解し、思考力、表現力などの向上をめざします。 (2) 専門選択科目では、各自が選択したコースの専門領域（国際関係、国際文化、言語）に関する知識の深化をめざすとともに、クリティカルかつロジカルに、ものごとを理解し、英語で発信できる力やグローバルな視野の獲得をめざします。

(3) 共通教育科目では、幅広い教養とインターンシップなどを通してキャリア形成の獲得をめざします。

2. 教育方法について

(1) 英語教育プログラムでは、学修コーディネーション委員会の下、Content-based approach(内容重視の外国語教育法)を用いた英語学習を行います。

(2) 英語教育プログラムにおいては、英語外部試験による客観的な指標によりクラス編成を行い、少人数によるクラス編成により各自のレベルに応じた科目履修を行います。

(3) 英語をより学びたい者は、海外提携校との協働プログラムによる高度な英語プログラムにて学修します。

(4) 専門選択科目においては、コース制(国際関係、国際文化、言語の3コース)を導入します。

(5) 主体的に学ぶ力を高めるため、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどの教育方法を活用したアクティブ・ラーニング型授業を実施します。

(6) クラスアドバイザー制度により、4年間の学びを通して順次的・発展的に学修が行えるように学修支援ならびに指導を行います。

(7) 本学独自の多彩なプログラムによる海外提携校への留学を推奨し、留学先大学での学修を通して、知識はもとより国際感覚、グローバルな視野などを身につけます。

3. 学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。

(1) 修得科目、留学等の体験、およびクラスアドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオにより、学修成果の達成度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。

(2) 長期留学にかかる英語力については、TOEFLなどの英語外部試験の客観的な指標を設け学修成果を検証します。

入学者の受入れに関する方針(公表方法: ホームページにて公表)

http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics.foreign.vision.3policy_english.pdf)

(概要)

本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。

1. 求める人材像について

高等学校までの履修内容を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、

(1) 高等学校での学習・活動を通しての基礎的な知識・技能や目的意識・意欲のある人

(2) 実践的な英語力を向上させるとともに、深い専門性を英語で探究することにより、国際社会で活躍できるキャリア形成をめざす強い意志を持つ人

2. 評価方法について

上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学で学修するための基盤となる学力などについて評価します。

(1) 一般入試

ア. 一般入試

個別学力検査(外国語、国語)により評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜する入試については、英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。

イ. センター試験利用入試

大学入試センター試験の得点により評価します。

(2) 特別入試

ア. 公募制推薦入試においては、基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書を総合して評価します。

イ. 特技入試においては、書類選考（エントリーシート、調査書等、学校長推薦書）などにより評価します。

学部等名 外国語学部 スペイン語学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページにて公表

http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics_foreign_vision_3policy_spanish.pdf）

（概要）

高度で実践的なスペイン語運用能力の向上を図るとともに、スペインやラテンアメリカを基軸とした諸外国の事情に関する幅広い理解、国際感覚、ならびに豊かな専門知識を育むことにより、国際社会で活躍できる人材の育成を目的とします。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公表

http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics_foreign_vision_3policy_spanish.pdf）

（概要）

本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる能力・資質を身につけた者に、「学士（スペイン語学）」の学位を授与します。

1. スペイン語の高度な運用能力を身につけ、論理的にものごとを理解し、自らの意見を表現できるようになる。
2. 自分の専門領域（国際関係、国際文化、言語）に対する専門性を探究することにより、グローバル社会で求められる専門的知識・教養を身につけ、一層豊かな国際感覚を磨いて、多文化共生の国際社会で活躍できるようになる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公表

http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics_foreign_vision_3policy_spanish.pdf）

（概要）

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能等を修得させるために、専門教育科目、共通教育科目を体系的に編成し、授業を開講します。

・コミュニケーション・ツールとしての実用的なスペイン語力、および英語力の養成をめざします。

・学生のキャリア目標に応じた専門科目を体系的に学修するコース制をとります。

・専門教育科目において、スペイン語学・文学等に関する科目とともに文化・歴史・社会等に関する科目をここに位置づけ、これらの科目について一定程度の深い専門性を

加えた内容を学習することによって、いわゆる「外国学」を広く修得することとし、共通教育科目を含めた教育課程全体で「幅広い教養と豊かな人格形成」をめざします。

1. 教育内容について

(1) 1・2年次の専門必修科目（コア必修科目）では、スペイン語を集中して学び、「聞く・話す・読む・書く」の4技能およびスペイン語圏の文化に関する学修に加え、英語についても学修し、思考力、表現力などの向上をめざします。

(2) 専門選択科目では、各自が選択したコースの専門領域（国際関係、国際文化、言語）に関する知識の深化をめざすとともに、クリティカルかつロジカルに、ものごとを理解できる力やグローバルな視野の獲得をめざします。

(3) 共通教育科目では、幅広い教養とインターンシップなどを通してキャリア形成の獲得をめざします。

2. 教育方法について

(1) スペイン語教育プログラムにおいては、ヨーロッパ言語共通参照枠レベルに基づいて少人数クラスによる科目履修を行います。

(2) より高度なスペイン語を学びたい者には、スペイン・ラテンアメリカから招へいた外国人教員による集中的なスペイン語プログラム（CIE: Curso Intensivo de Español）にて学修します。

(3) 専門選択科目においては、コース制（国際関係、国際文化、言語の3コース）を導入します。

(4) 主体的に学ぶ力を高めるため、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどの教育方法を活用したアクティブ・ラーニング型授業を実施します。

(5) クラスアドバイザー制度により、4年間の学びを通して順次的・発展的に学修が行えるように学修支援ならびに指導を行います。

(6) 本学独自の多彩なプログラムによる海外提携校への留学を推奨し、留学先大学での学修を通して、知識はもとより国際感覚などを身につけます。

3. 学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。

(1) 修得科目、留学等の体験、およびクラスアドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオにより、学修成果の達成度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。

(2) 長期留学にかかるスペイン語力については、スペイン語外部試験（DELE）の客観的な指標を設け学修成果を検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公表

http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics_foreign_vision.3policy_spanish.pdf）

（概要）

本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。

1. 求める人材像について

高等学校までの履修内容を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、

(1) 高等学校での学習・活動を通しての基礎的な知識・技能や目的意識・意欲のある人

(2) 実践的なスペイン語力を向上させるとともに、スペインやラテンアメリカを基軸とする専門性を探究することにより、国際社会で活躍できるキャリア形成をめざす強い意志を持つ人

2. 評価方法について

上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学で学修する学力などについて評価します。

(1) 一般入試

ア. 一般入試

個別学力検査（外国語、国語）により評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜する入試については、

英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。

イ. センター試験利用入試

大学入試センター試験の得点により評価します。

(2) 特別入試

ア. 公募制推薦入試においては、基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書

を総合して評価します。
 イ. 特技入試においては、書類選考（エントリーシート、調査書等、学校長推薦書）などにより評価します。
 ウ. 社会人入試においては、書類選考（志願理由書）・筆記試験・面接を総合して評価します。
 エ. 帰国生徒入試においては、筆記試験および面接を総合して評価します。
 オ. 指定校入試においては、書類選考（調査書等、学校長推薦書）、ならびに面接を総合して評価します。

学部等名 英語国際学部 英語国際学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics_globalcomm_vision_3policy_globalcommunication.pdf
（概要） 実用的な英語運用能力を基礎に国際的なコミュニケーション力を育成する。加えて、異なる文化、歴史を理解する力やグローバル・キャリア基礎力を養成するとともに、海外留学における学修等を通じて、グローバル社会を支え国際舞台で活躍できるミドル・マネジメント層につながる国際的な教養を備えた人材の育成を目的とします。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics_globalcomm_vision_3policy_globalcommunication.pdf
（概要） 本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士(英語国際)」の学位を授与します。 1. 自らの考えを積極的に発信できる英語力の修得、ならびに英語に加え中国語を学修し、多様な人々と柔軟にコミュニケーションできるようになる。 2. 異文化にかかる知識の獲得、異なる価値観や考え方を受容し、対応できるようになる。 3. グローバル社会にかかる幅広い知識を身につけ、その動向を理解し分析できるようになる。 4. 主体性、行動力、論理的思考力、課題解決力など、グローバル社会で活躍する上で求められる能力を身につけ、発揮できるようになる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/academics_globalcomm_vision_3policy_globalcommunication.pdf
（概要） 本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能などを修得させるために、専門教育科目、教養教育科目を体系的に編成し、授業を開講します。 ・ 実用的な英語や中国語能力を核とした「国際的コミュニケーション力」も加え、「異文化理解力」、「国際理解力」、「グローバル・キャリア基礎力」の3つの国際力の養成をめざします。 ・ 早期の1学期間の英語圏語学留学および中国語圏語学留学プログラムとの有機的連携により、異文化理解や国際的なコミュニケーション力の向上をめざします。 ・ 専門教育科目において、英語学・文学等に関する科目とともに文化・歴史・社会等に関する科目をここに位置づけ、これらの科目について一定程度の深い専門性を加えた内容を学習することによって、いわゆる「外国学」を広く修得することとし、共通教育科目を含めた教育課程全体で「幅広い教養と豊かな人格形成」をめざします。 1. 教育内容について (1) 1年次を英語力の集中育成の段階と位置づけ、専門必修科目「Advanced English Studies」プログラムでは、英語の4技能をバランスよく学び、コミュニケーション力の向上をめざし

ます。

(2)英語に加え原則中国語を履修するとともに、2年次に、英語圏、中国圏への語学留学を通して、国際的なコミュニケーション力の向上、異文化に柔軟に対応する力の修得をめざします。

(3)初年次教育科目「フレッシュマン・セミナー」「フレッシュマン・プロジェクト」では、大学の学びへと誘い、アカデミックスキルの修得をめざします。

(4)専門選択科目（「国際コミュニケーション科目群」「グローバル・キャリア科目群」）では、グローバル社会についての理解を深めるとともに、異文化理解力、国際理解力、グローバル・キャリア基礎力をはじめ、論理的思考力、リサーチ力等の修得をめざします。

(5)教養教育科目では、幅広い教養、主体性、課題解決力などの修得、ならびにプロジェクト・セミナー、インターンシップなどを通してキャリア形成の修得をめざします。

2. 教育方法について

(1)専門必修科目の英語科目においては、英語外部試験による客観的な指標によりクラス編成を行い、少人数によるクラス編成により各自のレベルに応じた科目履修をします。

(2)2年次において、原則1学期間の英語圏への語学留学を行います。また、希望者には英語圏への語学留学に加え、中国語圏への語学留学を奨励します。

(3)主体的に学ぶ力を高めるため、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどの教育方法を活用したアクティブ・ラーニング型授業を実施します。

(4)産業界等と連携したProject-based learning（プロジェクト型学習授業）の授業等を通して、キャリア意識の形成を図ります。

(5)クラスアドバイザー制度により、4年間の学びを通して順次的・発展的に学修が行えるように学修支援ならびに指導を行います。

(6)本学独自の多彩なプログラムによる海外提携校への留学を推奨し、留学先大学での学修を通して、知識はもとより国際感覚、グローバルな視野などを身につけます。

3. 学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。

(1)修得科目、留学等の体験、およびクラスアドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオにより、学修成果の達成度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。

(2)長期留学にかかる英語力についてはTOEFLなどの英語外部試験の、また中国語力については中国外部試験（HSK）の客観的な指標を設け学修成果を検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公表

http://www.kansaiaidai.ac.jp/common/pdf/academics.globalcomm.vision.3policy_globalcommunication.pdf)

（概要）

本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。

1. 求める人材像について

高等学校までの履修内容を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、

(1)高等学校での学習・活動を通しての基礎的な知識・技能や目的意識・意欲のある人

(2)国際的なコミュニケーションを可能とする英語力、中国語力の向上、ならびにグローバル社会で活躍する上で必要な国際力（異文化理解力、国際理解力など）」としてのグローバル・キャリア基礎力を身につけ、国際社会で活躍するキャリア形成をめざす強い意志と情熱を持つ人

2. 評価方法について

上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学で学修するための基盤となる学力などについて評価します。

(1) 一般入試

ア. 一般入試

個別学力検査（外国語、国語）により評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜する入試については、英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。

イ. センター試験利用入試

大学入試センター試験の得点により評価します。

(2) 特別入試

ア. 公募制推薦入試においては、基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書を総合して評価します。

イ. 特技入試においては、書類選考（エントリーシート、調査書等、学校長推薦書）などにより評価します。

ウ. 社会人入試においては、書類選考（志願理由書）・筆記試験・面接を総合して評価します。

エ. 帰国生徒入試においては、筆記試験および面接を総合して評価します。

オ. 指定校入試においては、書類選考（調査書等、学校長推薦書）、ならびに面接を総合して評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにて公表

<http://www.kansaiaidai.ac.jp/info/disclosure/publication/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
英語キャリア学部	－	13 人	8 人	9 人	3 人	0 人	33 人
外国語学部	－	71 人	46 人	59 人	21 人	0 人	197 人
英語国際学部	－	20 人	14 人	10 人	3 人	0 人	47 人
研究所等	－	1 人	0 人	1 人	0 人	0 人	2 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		223 人					223 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページにて公表 https://rapport2.kansai-gaidai.ac.jp/syllabus/GUSW3000Login.do					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
大学全体の教育活動の質的向上・発展を図ることを目的として、FD 委員会を設置しており、主な活動は以下のとおりとなります。 （1）FD 授業公開の実施（年間 2 回） 春・秋学期に各 2 か月間の授業公開期間を設け、全学部（短期大学含む）全授業を対象とした教員の相互授業参観を行っています。授業者は、参観者からの建設的なコメント（フィードバック）を自分の授業に反映させる。同時に、参観者は、授業者の教授法を自らの授業の参考にしています。 （2）FD 教員研修会の開催（年間 1 回） 当該年度着任の教員を主な対象に、より魅力ある授業を目指し、授業経験豊富な教員の授業実践報告・議論を通じて、授業の質の向上を図っています。 （3）FD 授業評価の実施（年間 2 回）・分析（年間 1 回） 春・秋学期ともに、全開講科目の履修者を対象として FD 授業評価を実施しています。FD 授業評価結果は、各学期終了後に担当教員本人へフィードバックしています。 （4）FD 授業評価・分析に関する教員の所見回収、公表（年間 1 回） 各教員は上記の授業評価結果を踏まえ、年度末に自己分析を行っています。次年度からの授業運営に生かすことで、授業の質の向上を図っています。FD 授業評価結果および自己分析結果は、学修支援システム上で学生に公開しています。 （5）FD 講演会の開催（年間 1 回） 学外の専門家や実務家を招き、外部から見た本学に求められる教育研究活動等、FD の形骸化を防ぎ、推進に寄与するテーマを設定、講演・質疑応答を通じて授業改善を図っています。 （6）FD カフェの開催（不定期） 学内の教員が、教育・授業、学問・研究、あるいは人生観など自由に話し、参加者と懇談しています。学生も参加可能で、教員と学生とが、専門的な事項について活発かつ自由に議論し、教員・学生協働で授業改善を図っています。 （7）FD 授業実践研究フォーラムの開催（年間 1 回） 全学的に発表者を公募し、応募教員一人当たり 30 分の持ち時間で教育実践を中心とした高等教育に関するテーマについて学会形式で発表を行うもので、教員同士の知見・経験を共有し、教育力の向上をめざします。 （8）機関紙『FD Newsletter』の発行（年間 2 回） FD 委員会の活動方針・予定、教員の参加状況・コメント、各プログラムの実施報告等を掲載した機関紙を発行し、紙面は日英両語で併記され、約 180 人の外国人教員とも情報の共有を図っています。 （9）機関誌『高等教育研究論集』の刊行（年間 1 回） 本学教員の教育実践に係る論文等の投稿を募集し、FD 委員会が査読を行い掲載の可否を判断しています。併せて、FD 委員会が企画・実施した FD 活動記録も含めて編纂し、全教職員に配付しています。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
英語キャリア学部	150 人	142 人	94.6%	600 人	590 人	98%	0 人	0 人
外国語学部	1,420 人	1,414 人	99.5%	6,330 人	6,737 人	106%	325 人	378 人
英語国際学部	700 人	727 人	103.8%	3,000 人	3,205 人	106%	100 人	101 人
合計	2,270 人	2,283 人	100.5%	9,930 人	10,532 人	106%	425 人	479 人
(備考) b/a：小数第2位以下切り捨て								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
英語キャリア学部	172 人 (100%)	0 人 (0%)	151 人 (87.8%)	21 人 (12.2%)
外国語学部	1,783 人 (100%)	7 人 (0.4%)	1,520 人 (85.2%)	256 人 (14.4%)
英語国際学部	821 人 (100%)	5 人 (0.6%)	714 人 (87.0%)	102 人 (12.4%)
合計	2,776 人 (100%)	12 人 (0.4%)	2,385 人 (85.9%)	379 人 (13.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
日本航空、全日本空輸、エミレーツ航空、シンガポール航空、ANA 関西空港、JAL スカイ、日本ハム、サッポロビール、大塚製薬、村田製作所、ヤマハ発動機、京セラ、みずほフィナンシャルグループ、りそな銀行、船井総合研究所、マイナビ、ウェスティンホテル大阪、ザ・リッツ・カールトン大阪、帝国ホテル、ロイヤルホテル、近畿日本ツーリスト、JTB、日本旅行、日本食研ホールディングス、ユニクロ、日本通運、日本郵便、楽天、大和ハウス工業、ECC、大阪府教員(小・中・高)、兵庫県教員(小・中・高)、京都府教員(小・中)、愛知県教員(中・高)、国家公務員、地方公務員 等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
英語キャリア学部	190 人 (100%)	153 人 (80.5%)	14 人 (7.4%)	19 人 (10.0%)	4 人 (2.1%)
外国語学部	1,631 人 (100%)	1,272 人 (78.0%)	127 人 (7.8%)	186 人 (11.4%)	46 人 (2.8%)
英語国際学部	801 人 (100%)	679 人 (84.8%)	40 人 (5.0%)	73 人 (9.1%)	9 人 (1.1%)
合計	2,622 人 (100%)	2,104 人 (80.2%)	181 人 (6.9%)	278 人 (10.6%)	59 人 (2.3%)
（備考）留年者 180 人のうち 34 人、18.9%は留学による留年者。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要） 【授業計画書（シラバス）の作成過程】 すべての授業科目において、講義概要、実務経験のある教員等による授業科目についてはその旨、到達目標、受講に際しての注意事項、評価基準、教科書、授業計画（各回の内容）、授業外学修を記載した授業計画書（シラバス）を作成しています。作成にあたり、各学部・学科等の学位授与方針との整合性や厳格かつ適正な成績評価を設定するために、授業計画書（シラバス）作成の手引きを教務委員会で策定し、毎年全教員へ配付しています。各教員が作成した授業計画は、教務委員会等の第三者が内容確認を行い、必要に応じて各教員への指導を行うなど、教育内容・方法の質が維持できるよう努めています。 【授業計画書（シラバス）の作成・公表時期】 授業計画書（シラバス）は、次年度の履修登録時（3月下旬）にWebで公表し、授業選択の際にすべての開講科目が確認できるようにしています。Webによる授業計画書（シラバス）の公表は、2004年度より行っており、学生が過去に履修した授業の内容の確認や卒業後の進学において単位認定等で活用できるよう、過年度の授業計画書（シラバス）もすべて公表しています。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要） 【英語キャリア学部 英語キャリア学科】 ○学位授与の方針（DP） 本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士（英語キャリア）」の学位を授与します。 1. 高度なコミュニケーション力と、国際社会で通用する知識、教養、スキルを身につけ、グローバル社会で自在に意思疎通を図ることができるようになる。 2. 論理的思考力、公正な視点、幅広い教養を身につけ、グローバル社会でリーダーシップを発揮することができるようになる。 3. 国際理解力、多文化共生力を身につけ、グローバル社会で貢献を果たすことができるようになる。
--

○学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認、英語外部試験による客観的指標等により行います。

1. 修得科目、留学等の体験、および3アドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオを活用し、学修成果の到達度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。

2. 英語力については、TOEFLなどの英語外部試験の客観的な指標を設け学修成果を検証します。

3. 4年次における複合研究科目の履修と学修成果の発表により、4年間の学修成果を評価します。

【英語キャリア学部 英語キャリア学科 小学校教員コース】

○学位授与の方針（DP）

本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけ、小学校教員免許状を取得した者に、「学士(教育)」の学位を授与します。

1. 教育に対する強い情熱・使命感を持ち、小学校教育において優れた指導力を発揮できるようになる。

2. 教科指導、生活指導、教科外活動などの学校教育活動を推進できるようになる。

3. コミュニケーション力、国際理解力、多文化共生力を身につけ、小学校英語の実践において指導的な役割を演じることができるようになる。

○学修成果の評価について

1. 学修成果の評価は、単位修得の確認、教員免許状の取得状況などにより行います。修得科目、教育実習などの学びの履歴、およびクラス・アドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオを活用し、学修成果の到達度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。

2. 小学校教員としての資格である「小学校教諭一種免許状」の取得を卒業要件の一つとして課します。

【外国語学部 英米語学科】

○学位授与の方針（DP）

本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士(英語学)」の学位を授与します。

1. 人文科学および社会科学の英語基礎文献を正確に理解し、思考力、表現力を高めて、自らの意見を英語で発信できるようになる。

2. クリティカルかつロジカルに、ものごとを理解し、英語で発信できるようになる。

3. 自分の専門領域（国際関係、国際文化、言語）に対する深い専門性を英語で探究することにより、グローバル社会で求められる専門的知識・教養を身につけ、一層豊かな国際感覚を磨いて、多文化共生の国際社会で活躍できるようになる。

○学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。

1. 修得科目、留学等の体験、およびクラスアドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオにより、学修成果の達成度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。

2. 長期留学にかかる英語力については、TOEFLなどの英語外部試験の客観的な指標を設け学修成果を検証します。

【外国語学部 スペイン語学科】 ○学位授与の方針（DP） 本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる能力・資質を身につけた者に、「学士（スペイン語学）」の学位を授与します。 １．スペイン語の高度な運用能力を身につけ、論理的にものごとを理解し、自らの意見を表現できるようになる。 ２．自分の専門領域（国際関係、国際文化、言語）に対する専門性を探究することにより、グローバル社会で求められる専門的知識・教養を身につけ、一層豊かな国際感覚を磨いて、多文化共生の国際社会で活躍できるようになる。 ○学修成果の評価について 学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。 １．修得科目、留学等の体験、およびクラスアドバイザーによる面談記録など４年間の学修記録としてのポートフォリオにより、学修成果の達成度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。 ２．長期留学にかかる英語力については、TOEFL などの英語外部試験の客観的な指標を設け学修成果を検証します。				
【英語国際学部 英語国際学科】 ○学位授与の方針（DP） 本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士（英語国際）」の学位を授与します。 １．自らの考えを積極的に発信できる英語力の修得、ならびに英語に加え中国語を学修し、多様な人々と柔軟にコミュニケーションできるようになる。 ２．異文化にかかる知識の獲得、異なる価値観や考え方を受容し、対応できるようになる。 ３．グローバル社会にかかる幅広い知識を身につけ、その動向を理解し分析できるようになる。 ４．主体性、行動力、論理的思考力、課題解決力など、グローバル社会で活躍する上で求められる能力を身につけ、発揮できるようになる。 ○学修成果の評価について 学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。 １．修得科目、留学等の体験、およびクラスアドバイザーによる面談記録など４年間の学修記録としてのポートフォリオにより、学修成果の達成度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。 ２．長期留学にかかる英語力については TOEFL などの英語外部試験の、また中国語力については中国外部試験（HSK）の客観的な指標を設け学修成果を検証します。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
英語キャリア学部	英語キャリア学科	124 単位	有・無	24 単位
	英語キャリア学科 小学校教員コース	129 単位	有・無	24 単位
外国語学部	英米語学科	124 単位	有・無	24 単位
	スペイン語学科	124 単位	有・無	24 単位
英語国際学部	英語国際学科	124 単位	有・無	24 単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansai-gaidai.ac.jp/common/pdf/university_objective_indicator.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：ホームページにて公表 https://rapport2.kansai-gaidai.ac.jp/portal/top.do 注：アカウントを持つ学生のみ閲覧可		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページにて公表
<http://www.kansaiaidai.ac.jp/info/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
英語キャリア学部	英語キャリア学科	800,000 円	250,000 円	350,000 円	その他欄 350,000 円は教育充実費
	英語キャリア学科 小学校教員コース				
	外国語学部				
外国語学部	スペイン語学科				
英語国際学部	英語国際学科				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 学生の修学に係る支援の取組として、学生の主体的な学びを支援するため、ラーニングコモンズを設けています。ラーニングコモンズは、約 300 席があり、パソコン 51 台（ノート PC30 台とデスクトップ PC を 21 台）を用意しています。グループでのディスカッションや、プレゼンテーション資料の作成・練習など、学生はそれぞれの学習目的に合わせて利用できるような支援を行っています。 授業における授業外学修支援として、e ラーニング型の学習管理システムの「Blackboard」を導入し、教材のダウンロードや課題・レポートの提出等がオンラインで行え、地理的・時間的制約を受けずに取り組めるような支援を行っています。また、学生自らが語学の習熟度を主体的かつ客観的に測るため、学内において、TOEFL (PBT) を年間 10 回、TOEIC を年間 7 回、スペイン語検定試験・DELE を年間各 2 回、HSK（中国漢語水平考試）を年間 3 回、実施しています。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） キャリアデザインプログラムという名称のもと、正課授業と正課外プログラムの両面から学生の進路選択に係る支援を展開し、双方が有機的に連携するよう設計しています。 正課授業では、将来の生き方や働き方について考える「キャリアデザイン」や、各種業界から招いたゲストスピーカーが講義する「キャリア形成」等を開講しており、全学部の学生を対象として低学年から履修できるよう配慮しています。 正課外プログラムでは、学年の進行に応じたキャリア形成の支援を目的として、1 年次では「キャリア開発ガイダンス」（3 回）、2 年次では「キャリアガイダンス」（3 回）、3 年次では「就職ガイダンス」（7 回）を実施しています。そして、多人数を対象としたこれらのガイダンスを補完するために、中人数（10～20 人程度）で開催する各種セミナー、さらに専門資格を持ったキャリアカウンセラーによる個別面談等、各種の支援策が用意され、個々の学生の

ニーズに応じたサポートを行っています。
また、キャリア形成の一環として、低学年からのインターンシップへの参加にも力を入れており、2018年度には学校推薦型のインターンシップに584名が参加し、そのうち111名は海外でのインターンシップを経験しています。
他にも国内2大航空会社が参加する「エアラインフェア」や、外資系ホテルが参加する「ホテルフェア」等の関西外大ならではのキャリア支援プログラムや、業界を代表する企業による「業界研究会」（19年：88社参加）や、関西外大生の採用に積極的な企業が参加する「学内企業研究セミナー」（19年：443社参加）等、様々なかたちで学生の進路選択の支援に取り組んでいます。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生の心身の健康等学生生活に関する相談・対応として、専任教員による「クラスアドバイザー」制度があります。心的な悩み等には専門的なカウンセリング部門として、中宮キャンパス・御殿山キャンパス・グローバルタウン両キャンパスに「学生相談室」を常設しています。 体育会系クラブには「部長」、文化系クラブには「チューター」を大学教職員が担当しており、「部長」・「チューター」らが課外活動における課題、悩み解決に取り組んでいます。 学生生活全般の安全、衛生を総括して管理する「学生部委員会」が専任教員によって構成・組織されています。事務局では「学生部」が「学生部委員会」や「学生相談室」等と連携し、学生生活の支援に取り組んでいます。 身体に障がいがある学生には、点字ブロック、カットテーブル、スロープの設置、状況・本人の希望に応じて、昼食や着替え、休憩できる場所の提供、電動車いすの一時預かり等配慮しています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページにて公表 https://rapport2.kansai-gaidai.ac.jp/syllabus/GUSW3000Login.do
